

審 査 総 評

大分県木材会館は、CLT 等新たな木質部材、工法の展示・普及機能を持った施設として、建築材料としての地域材の良さを広く情報発信するとともに、今後建設されるオフィスビルや公共建築物等中高層建築物において地域材を活用した木造建築物等の建設促進のモデル的な建築物となることを目指したものである。

本プロポーザル実施要領として提出のあった提案書は、どれも本事業の設計業務に適した技術力、想像力及び経験をもった設計者による質の高いものであった。

1次審査においては、CLT を用いたさまざまな建築の提案がなされた。CLT 建築の実現に関わる法整備は現在進行形であり、今後、法整備が進めば実現可能な魅力的な建築の提案もあったが、本プロジェクトの計画内での実現可能性の高い4案を2次審査対象として選出した。

2次審査においては、提案の適格性、独創性、実現性を中心に公開審査が行われた。集成材の軸組とCLT 面材をシンプルに組み合わせた提案、さまざまな木質材料と構造要素を組み込んだ提案、これまでの集成材建築にCLT を加えて発展させた提案、鉄骨造とCLT を組み合わせることで木材を多く魅せる提案が並んだ。

本プロジェクトは、ひとつの建物を建設するというだけでなく、これから県外、特に都市部に向けて木造建築の可能性を提案する必要がある、プロトタイプとしての技術提案が要求されている点から木造建築の多くの可能性を提示したアイビック・ビルディングランドスケープ設計共同体案を最優秀者に選定した。次点として、シンプルな構造システムでさまざまな建物への展開が可能な青木茂建築工房を選定した。最優秀案も、さまざまな要素が組み合わされそれぞれの要素の良さがわかりにくいという意見もあり、今後、事業主と具体的な協議を進め、建物としての魅力、都市木造の可能性を提示する提案に改良されることを期待したい。

また、本事業は建物計画段階から設計、施工、竣工後の活用まで含めた木造建築の普及活動も重要な位置を占めており木造建築に関する知識、大分県の林業、木材工業に関する知識についても質問を行ったが、まだまだ、建築関係者と木材関係者の交流の場が足りていない状況である。このプロジェクトを通して、担当設計者のみならず多くの建築関係者と木材関係者の継続的な交流の機会となることを期待していると同時に、継続的に木造建築の可能性について考え、さまざまな木造建築の実現につながることを期待したい。